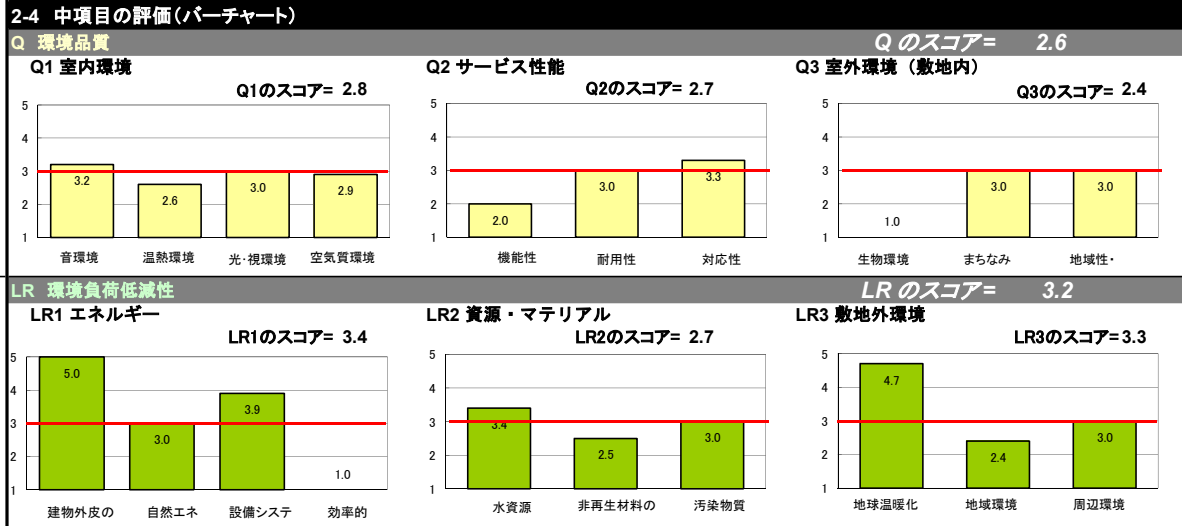
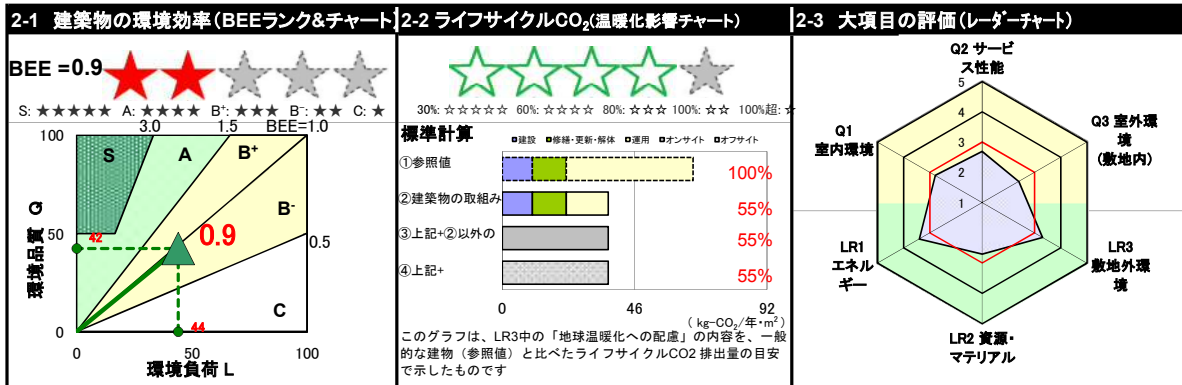


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知学泉大学岡崎学舎 旧3号館	階数	地下0階地上4F
建設地	愛知岡崎市船越町上川成28	構造	S造
用途地域	指定なし、法第22条区域	平均居住人員	980 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,500 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2018年6月11日
敷地面積	39,386 m <sup>2</sup>	作成者	寺田 穂
建築面積	1,385 m <sup>2</sup>	確認日	2018年6月13日
延床面積	3,719 m <sup>2</sup>	確認者	河合あかね



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">3.2 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体			
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体				
		評価点	評価点														
<b>Q 建築物の環境品質</b>														<b>2.6</b>			
<b>Q1 室内環境</b>														<b>2.8</b>			
<b>1 音環境</b>																	
1.1 室内騒音レベル														3.2			
1.2 遮音														3.0			
1 開口部遮音性能														3.0			
2 界壁遮音性能														3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0			
1.3 吸音														4.0			
天井材に顔面吸音板、床材にタイルカーペットを使用														0.20			
<b>2 温熱環境</b>														<b>2.6</b>			
2.1 室温制御														3.0			
1 室温														3.0			
2 外皮性能														3.0			
3 ゾーン別制御性														0.40			
2.2 湿度制御														1.0			
2.3 空調方式														3.0			
2.3 空調方式														0.30			
<b>3 光・視環境</b>														<b>3.0</b>			
3.1 昼光利用														3.0			
1 昼光率														3.0			
2 方位別開口														0.60			
3 昼光利用設備														3.0			
3.2 グレア対策														3.0			
1 昼光制御														3.0			
3.3 照度														3.0			
3.4 照明制御														0.25			
<b>4 空気質環境</b>														<b>2.9</b>			
4.1 発生源対策														4.0			
1 化学汚染物質														4.0			
F☆☆☆☆の建築材料を7割以上の面積に使用														1.00			
4.2 換気														1.0			
1 換気量														1.0			
2 自然換気性能														0.50			
3 取り入れ外気への配慮														1.0			
4.3 運用管理														3.0			
1 CO <sub>2</sub> の監視														1.0			
2 喫煙の制御														5.0			
建物全体を禁煙としている														0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>														<b>2.7</b>			
<b>1 機能性</b>														<b>2.0</b>			
1.1 機能性・使いやすさ														1.0			
1 広さ・収納性														0.40			
2 高度情報通信設備対応														-			
3 バリアフリー計画														1.0			
1.2 心理性・快適性														2.5			
1 広さ感・景観 (天井高)														0.30			
2 リフレッシュスペース														2.0			
3 内装計画														0.50			
1.3 維持管理														3.0			
1 維持管理に配慮した設計														4.0			
2 維持管理用機能の確保														0.50			
防汚性、防錆性を考慮した建材の使用、害虫対策等を行っている														2.0			
<b>2 耐用性・信頼性</b>														<b>3.0</b>			
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0			
2 免震・制震・制振性能														0.80			
2.2 部品・部材の耐用年数														3.7			
1 躯体材料の耐用年数														3.0			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														5.0			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														0.23			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0			
6 主要設備機器の更新必要間隔														0.09			
耐用年数の長いALC、押出成形セメント板を使用														3.0			
耐用年数の長い配管を使用し、長寿命化に配慮														0.08			
2.4 信頼性														5.0			
1 空調・換気設備														0.15			
2 給排水・衛生設備														3.0			
3 電気設備														0.23			
4 機械・配管支持方法														2.2			
5 通信・情報設備														0.19			
2.0														0.20	-	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>				3.3	0.29			-	3.3
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31			-	
1 階高のゆとり			将来の変更等を考慮し、階高を3900mm以上とした	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		2.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			設備の更新性を考慮し、傷つけないよう計画した	3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30			-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.2
<b>LR1 エネルギー</b>									3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			西側・南側窓部に日射遮蔽効果の高いLow-E複層ガラスを使用	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			外皮の熱負荷を可能な限り	3.9	0.30			-	3.9
4 効率的運用				1.0	0.20			-	1.0
集合住宅以外の評価				1.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				1.0	1.00			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>									2.7
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマ、省水型機器を採用した	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63			-	2.5
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>									3.3
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2の排出率を一般的建築物の同等以下とした	4.7	0.33			-	4.7
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な量及び配置の駐輪・駐車場を設けている	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

**重点項目スコアシート**

愛知学泉大学岡崎学舎 1B3号館

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:3.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	・既存キャンパスとの 連動 利便性 調和 の追求
Q1 室内環境	・Low-E複層ガラスを使用する計画とし、遮熱性・断熱性を高め、熱負荷の低減を配慮した。
Q2 サービス性能	・設備の更新性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	・中庭との親和性を図るため、中間領域としての大階段を設け、内部と外部に連続性を持たせる計画とした。
LR1 エネルギー	・主要な用途別にエネルギーの内訳を把握し、効率よく運用できるよう配慮した。
LR2 資源・マテリアル	・節水コマに加え節水便器等を採用し節水に配慮した。
LR3 敷地外環境	・LCCO2が一般的な建築物と同等以上になるよう配慮した。
その他	・特になし